

## 真和館だより 第6号

## 風の彩り

## 真和館のソフトとハードについて



施設長 藤本和彦

新年明けましておめでとうございます。昨年中は、県社会福祉課、各福祉事務所、西原村、烏子地区のみなさまを始め、関係者のみなさま大変お世話になりました。平成23年度はいよいよ、施設開設から6年目に入ることになります。心から御礼を申し上げます。

さて、真和館の入所者処遇等のソフト面につきましては、「3年で一人前の施設運営」というスローガンのもと、役職員一体となって、頑張ってきたところであります。その結果、精神障害者やアルコール依存症の処遇には、私が申し上げることは口幅ったいことで恐縮ですが、それなりの効果が上がってまいりました。たとえば、精神障害者の方に、「薬」を継続的に飲んで頂くことは、大変大事なことです。その取り組みについて、10月27~28日沖縄で開催された「第35回全国救護施設研究大会」で九州の代表として、「服薬管理体制の確立」と題して、真和館の服薬管理について発表しております。

また、11月18日鹿児島市で開催された財団法人日本科学技術連盟QCサークル九州支部 中部地区QC大会でも、同じ内容のものを工業関係の企業に混じり発表させていただきました。

さらに、真和館のアルコール依存症に関する取り組みについても12月4日熊本市で開催された「熊本県アルコール関連問題学会」で発表の機会を与えて頂きました。「3年で一人前の施設運営」というスローガンが5年目にしてやっと達成できた感があります。

一方、ハード面も真和館は、平成18年4月にオープンした新しい施設であり、居室も一人部屋と実質個室に近い二人部屋のため、プライバシーが比較的に保たれています。入所者のみなさまはゆっくりとした時間の流れの中で、とても仲良く、落ち着いた生活を送られています。

これに加え、11月5日には、熊本県並びに西原村の関係者のみなさまにもご臨席を賜り、新しい事務室・施設長室・更衣室と学習室・図書室からなる東館の竣工式が無事執り行われ、ポチポチと入所者の方も利用され始めました。

入所者処遇にあたり、ハードの整備は、欠かせないものであり、ソフトの優秀さだけではどうしても無い現実があると思われれます。そのような意味で、この東館の完成と既存の建物(本館)の改修(介護スタッフと医務室の拡充等)により、真和館職員の働く環境の改善と入所者サービスの一段の向上が図られることとなります。

役職員一同、さらなる精進を重ね、「質の高い入所者サービスの提供」に向けて努力をして参りますので、真和館を今年もどうか宜しく願い申し上げます。



## 真和館職員の資質向上に向けての取り組み

真和館 QC 活動「服薬管理体制の確立」  
～服薬に関する事故の撲滅！～

真和館では、平成19年度からQC活動に取り組んでおり、活動3年目の平成21年度に行った「服薬管理体制の確立」活動を、九州地区を代表して、10月に沖縄で開催されました全国救護施設職員研究大会で発表しました。更に、11月に鹿児島で行われた、第5246回QCサークル鹿児島大会においても同じ内容のものを発表させていただきましたので、その内容をご紹介します。

サークル名 : YWCサークル

(Yes We Canの頭文字)

メンバー : 西村(看護) 岩下(看護)

田上(介護) 江崎(介護) 平畑(介護)

## 活動経緯

1. テーマ選定は、服薬に関する事故やインシデントが起きていることから上位方針から決定。
2. 服薬事故、インシデントの現状を把握した結果、半年間に21件起きており、分類すると、「誤薬」9件「セットミス」12件に分けられた。
3. セットミスの要因の解析と、対策の立案を行い、薬保管方法の変更や散薬ケースの改造を行う。

## ☆散薬ケース

- ・名前が見やすいように側面と床面に名前ラベルを張る
- ・不要なマスはフタをして使えないようにする。
- ・朝、昼、夕で色分けする
- ・薬の個数が分かるように、数字で個別に薬の個数を表示する。

## ☆薬の保管

- ・個人別に入れ物を用意し、1人分が1ケースになるようにする。
- ・誰の薬か外見でわかるように名前を表示する。

4. 誤薬の要因解析と対策の立案を行い、マニュアルの改正と職員の教育を行った。

## ☆マニュアル改正点

- ・薬を配る時は入所者の手の届く所には置かない
- ・薬の確認の際は「指差呼称」し、名前を確認する。

## ☆介護職員への教育

- ・看護師より、マニュアルを基に、細かい与薬の方法について指導を行った。

## 5. 効果の確認

- ・完全な撲滅とは行かなかったが、対策後はセットミスが1件となった。

※活動の詳細はホームページで公開しています。

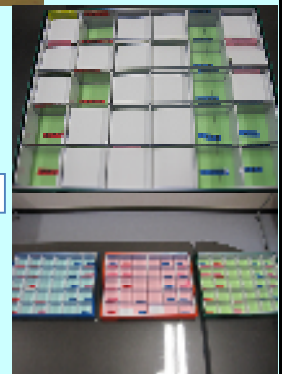
<http://shinwakan.sakura.ne.jp/qcywchukuyakukannri.pdf>



全国救護施設協議会 発表の様子



対策前 のケース



対策後のケース



対策前 薬の保管



対策後 薬の保管



QC鹿児島大会  
集合写真

# 真和館東館 竣工！



真和館の建物(本館)は、国庫基準に近い面積の中で、入所者の居室やトイレ等に「ゆとり」を持たせた造りとなっており、その分、事務室、医務室、介護スタッフ室、リネン庫、調理室等が狭く、特に、直接処遇に携わる職員の職場環境は劣悪な状況にありました。

そこで、これらの問題を解決するために、本館の横に新しい建物を建て、1F部分に事務室を移転し、これまでの事務室と施設長室を介護スタッフ室に転換し、既存の介護スタッフ室を医務室に取り込み、医務室を広くしました。

また、折角の増築ですので、費用は嵩みますが、2階部分に入所者のみなさんがカラオケや映画鑑賞あるいは様々なクラブ活動に利用できる学習室と図書室を整備いたしました。

さらに、職員の更衣室をリネン庫に転換し、調理室横のトイレと手洗いの部分を食品庫に改造し、災害時の食品を備蓄する場所にしました。

幸いにも調理室については、平成21年度に、現場の職員と施設長が知恵を絞りレイアウトの変更を行うことにより、狭くはありますが安全性が高く、効率の良い調理室に改善できています。

お蔭様で、職員が働くバックヤードの充実による業務の効率化と入所者のみなさまにもカラオケの練習や、映画鑑賞に利用いただき、とても喜んで頂くことができました。

## 地域交流

### 西原村老人健康づくり スポーツ大会

平成22年11月4日(木)、「平成22年度西原村老人健康づくり推進スポーツ大会」が開催され、真和館からも始めて参加させていただきました。

西原村の高齢者の方々は皆さんとてもお元気で、真和館の入所者の皆さんも負けていられないと張り切って参加させていただきました。

今回は、玉入れの種目に真和館チームとして参加させていただきました。西原村の方はとてもレベルが高く、真和館チームは惨敗という結果になりました。

しかし、地域の皆様とスポーツを通して楽しく触れ合うことができ、とても楽しい体験をさせていただきました。



### 第4回ふれあい交流会

平成22年8月8日(日)、真和館にて「第4回ふれあい交流会」を開催し、西原村保育園の園児及びその父兄の方々、また地域の皆様方に来館いただくことができました。

今年も、小さいお子さんから大人まで楽しく遊べるゲームや、身体障害者茶道クラブ裏千家「もえぎ」様による茶席などを設け、地域の皆様とふれあうことが出来ました。

メインの催しとしては、昨年に引き続きラジオパーソナリティ等でご活躍中の『寿咲亜衣』さんに民話を熊本弁で語っていただきました。パネルシアターと音楽を使った演出に、子供から大人まで、楽しい時間を過ごしました。



## 断酒の取組み

### 真和館におけるアルコール依存症者への取り組み状況

救護施設 真和館  
副施設長 藤本基子

救護施設 真和館は平成18年4月28日に阿蘇郡西原村にオープンしました。オープン前の1月中旬から3月中旬まで、100名を越える入所希望の問い合わせがあり、80数名の方にお会いしました。その中に19名のアルコール依存症者がおられ、診断は無いが飲酒問題があると思われる方が10名程おられる等早い段階からアルコール依存症者の方の入所が見込まれました。

設立当初から平成22年11月までの入所者数は117名、その中のアルコール依存症者数は49名。11月現在の入所者数55名に対しアルコール依存症者は24名、約43.6%です。

これまで飲酒については数々の失敗例があります。無断外泊による飲酒、焼酎の持ち込み、回し飲み、面会者によるビールの差し入れ、散歩中の飲酒、民家の庭に倒れパトカーが出勤し大騒ぎになった事、等等。「余命数ヶ月」と言って入所し、実は飲酒による体調不良で内科への入退院を繰り返す、自殺の自作自演や深夜の家出騒動へと発展した人もいました。

また、飲酒欲求が高まり飛び出そうとする人を長時間の根気比べで引き止め、もし飛び出されたら職員も一緒に付いて行き疲れ果てられたら車を呼び施設に連れて帰ります。この様に飲酒させない事を合言葉に職員一丸となって対応して参りました。

これら館内飲酒騒動も職員がアルコール問題に対する経験やノウハウを積むことにより、平成20年度中頃で終息しました。

毎朝「断酒の誓い」の斉唱、週1回の断酒会、心の安定を目的とした年4回の「心みがき講演会」を開催し、断酒への気持ちを継続させると共に、抗酒剤の服用を徹底するために、真和館QCサークル活動で服薬管理として取り上げて参りました。

このような取り組みの中から、飲酒が原因ではないかと言う観点に立ち物事を見、問題意識を持って対応する事が大事だ、という事を職員全員が実感として得ることができました。

やっと「飲まない飲ませないという」初歩的段階に辿り着いたこととなります。

今後は、どう地域に帰って行くのか、その場合飲まないでおられるのか。現在は真和館という断酒の継続に都合の良い環境の中での断酒であります。課題は山積みしています。皆様方のご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



<断酒の誓いの様子>

## 職員研修報告

独立行政法人 国立病院機構  
南九州病院 筋ジス病棟 実務研修

研修期間:5日間  
研修者 : 田上雄次郎(支援課 支援班長)

平成22年6月14日～18日までの5日間、鹿児島県の南九州病院(筋ジス病棟)に実務研修に行かせて頂きました。そこではスタッフ間の連携がとてすばらしく、全員が一丸となって統一したサービスを提供されていました。また、スタッフのみなさんの仕事に対する意識や姿勢がとて高く、身が引き締まる思いがしました。5日間の研修で学ばせて頂いた様々な事を、これからの業務に活かしながら質の高いサービスを目指していきたいと思ひます。(記:田上)

救護施設 しみず園(佐賀県) 実務研修

研修期間:5日間  
研修者 : 山下 浩司(支援課 介護班)

平成22年10月18日～22日までの5日間、佐賀県の救護施設しみず園に研修へ行かせて頂きました。

同じ救護施設でありながら、入所者のお手伝いや、農作業に対する支援方法、様々な障害を持たれている入所者に合わせた取り組み等、5日間では学ぶものがたくさんありました。

しみず園の良い所は真和館に取り入れ、真和館の良い所は今以上に伸ばせる取り組みを目指していきたいと思ひます。(記:山下)

## 心みがき講演会

### 第18回心みがきの講演会

講師 日本赤十字社熊本健康管理センター  
保健看護課長 牛島絹子 先生

テーマ「メンタルヘルスの自立訓練法」

ストレス社会と言われている現代、精神の安定を保ちストレスを溜めないように、どのように過ごしていくと良いか、イメージ法や呼吸法などを取り入れながらご講演していただきました。ストレスホルモンも減らし快樂ホルモンを分泌するための一番良い事は笑うこと。笑いは、自分も相手も心地良い気分させるという相乗効果があるという話がありました。笑いの効果は、人の輪を広げて人間関係を良好にすることにも繋がると思います。また、生活面においても朝きちんと起き、挨拶をして、食事や運動を行い1日の生活リズムを作ることも心の安定を図る基本的なことだと再確認しました。



### 第19回心みがきの講演会

講師 北川 八郎 先生

テーマ「未来を見つめる」

北川先生には、講演活動や執筆活動と忙しい中、真和館で今年もご講演をいただきました。今回は「未来を見つめる」というテーマで残りの人生をどのように生きるかについてお話していただきました。人は欠点を見てしまうところがありがちです。能力を否定せずに、できるところに着目していくと自分の心までも豊かになっていき楽しく優しく生きていけるということを学ばせていただきました。「自分が優しい気持ちでいると周りに優しい人が増えるという人生の法則がある」という言葉から、これからの人生において、怒らないで過ごし、人を嫌わず優しく生きようと思うことが大切であると感じました。



## 秋の旅行

11月の上旬と中旬に、日帰り旅行・お芝居見物・食事会の3コースに分かれ秋の旅行を実施しました。今回は41名の方が参加されました。

- ・Aコース: 草枕温泉てんすい→草枕交流館→滴水の大イチョウ(植木町)
- ・Bコース: お芝居見物(片岡演劇道場)
- ・Cコース: 食事会(阿蘇ミルク牧場)

日帰り旅行は、草枕温泉てんすいで食事をした後、夏目漱石の小説「草枕」の歴史資料館である草枕交流館で文学散策をしてきました。ある入所者さんはとても興味を持たれ、目を輝かせながら学芸員さんの説明を熱心に聴かれていました。滴水の大イチョウはまだ十分な色づきはしていませんでしたが、樹高42mの大きさに皆さん大変驚かれていました。

お芝居見物は、恒例の片岡演劇道場で笑いあり、涙ありの踊り等を存分に楽しめました。お芝居見物は毎回人気があり、今回はいつもよりも数が増え8名の方が参加されました。

食事会は、阿蘇ミルク牧場のバイキング料理を食べに行き、皆さんお好みの料理をお腹いっぱい食べ満足されていました。



## 医務室便り

### 感染性胃腸炎がはやっています!

- <症状>**○主に、腹痛、下痢、嘔吐。  
○熱はあまり高くない。  
○1~2日で回復するが、油断すると脱水症状を起こしひどくなる。
- <特徴>**○感染性が特に強い。  
○感染してから、1~2日で症状がでる。  
○秋から年末がノロウイルス、1~4月にロタウイルスが流行する。
- <予防策>**○とにかく、うがい、手洗い。  
○特に、トイレの後の手洗いを必ずする。  
○吐物、排泄物には触らない。

※十分な栄養と睡眠、そして適度な運動をして、抵抗力をつけましょう。



もしもカメよ、カメさんよ  
~♪  
を1曲歌いながら、流水で  
洗いましょう♪

## 調理室便り

みなさん、こんにちは。調理室からです!今回は新メニューについて載せたいと思います。丸ごとゆずゼリーです。地域の方からゆずを沢山頂いたので、中身をくり抜いて器にし、果汁でゼリーをつくりました。

丸ごとゆずゼリー

★材料(1人分)

- ・ゆず 1個
- ・ゆず果汁 1個分(約30cc)
- ・お湯 70cc
- ・上白糖 13g
- ・ゼラチン 3g
- ・ホイップクリーム 10g
- ・ミント(飾り) 適量

★作り方

- ①ゆずの頭の方を切る。(器の蓋部分になる)
- ②スプーンを入れ、中身をくり抜く。
- ③果肉をさらして包んで絞る。
- ④鍋に果汁とお湯、上白糖を加え火にかける。
- ⑤ふやかしたゼラチンを④に入れ、完全に溶かす。
- ⑥ゆず(くり抜いた実の部分)にゼリー液を流し込む。
- ⑦冷蔵庫で冷やし固める。
- ⑧仕上げにホイップクリームとミントを飾り、蓋を添える。



## 新任職員紹介



初めまして。栄養士の伊藤恵と申します。真和館の栄養士・西田さんが産休・育休に入られ、去年8月より代替職員としてお世話になっています。始めは緊張の連続でしたが、ようやく真和館の空気にも慣れ、入所者のみなさんとも仲良くなることが出来ました。1人でも多くの入所者の方に美味しいと言って頂けるよう頑張ります。おいしい食事の提供にがんばりますので、どうぞよろしくお願ひします。

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。  
この半年は、九救協、全救協でのQC活動発表や、アルコール学会での発表、真和館東館の建築から竣工と、大きなイベントが続き、入所者さんも、地域のスポーツ大会の参加、ふれあい交流会、秋の旅行と、内容盛り沢山で一つ一つを詳しくお伝えすることができませんでしたが、ホームページと合わせて出来る限り活動をご報告できるようにしております。

では、次号の「風の彩り」もお楽しみに。

<編集責任・広報委員>  
田上・今池・平畑

## お誕生者の案内

1月	3日 村中さん	3月	5日 澤田さん
	6日 小石川さん		20日 園田さん
	6日 本田(巳)さん		29日 元田さん
	11日 富田さん	4月	3日 坂崎さん
	12日 石坂(正)さん		3日 泉さん
	14日 佐藤さん		17日 岩永さん
2月	14日 松原さん	6月	21日 松山さん
	16日 緒方(ム)さん		24日 池田さん
	25日 福山さん		1日 松村さん
	31日 杉本さん	3月	12日 久我さん
	1日 川野さん		30日 高原さん
	2日 緒方(マ)さん		
2月	4日 和泉さん		
	4日 柳田さん		
	14日 坂本さん		
	16日 西川さん		
	25日 藤川さん		

発行: 社会福祉法人 致知会

救護施設 真和館

〒861-2401 熊本県阿蘇郡西原村鳥子3072番地

TEL:(096)279-1121 FAX:(096)279-1122

E-mail:shinwakan@utopia.ocn.ne.jp

HP:http://www2.ocn.ne.jp/~titikai/index.html

※「風の彩り」に掲載されている写真等は、ご本人の了解を得ております。